

## 泰澄大師の昔より えにしゆかしき大安寺

— 知ろう学ぼう継ごう文化の町 —

大安寺公民館

### 1 大安寺地区の概要

#### (1) 地区の紹介



【上空から見た大安寺地区】

福井市街から北西へ6km。ゆったりと流れる九頭竜川と、萬松山の山並みに囲まれた自然豊かな地区である。

昭和32年に上区と呼ばれた南檜原、北檜原、田ノ谷、四十谷、岸水、天菅生が福井市に編入され、

昭和42年川西町の福井市編入により、福井市の一地区となった。昭和48年に団地造成が始まり田ノ谷新町、四十谷新町第一・第二の3町が増え、昭和53年には南檜原の県住宅に入居が始まり、現在の10町となった。

古くは紙すきや燃糸、織物が盛んであったが、現在はリサイクル紙の製紙工場が1軒あるのみである。また、温泉施設が地区内に2か所あり、区民及び市民の憩いの場となっている。米作を中心とした農業も行っているが、兼業の勤労者世帯が多い。

平成27年8月1日現在で、世帯数416世帯、人口1,283人（男621人、女662人）となっている。

#### (2) わがまちの名称「大安寺」の由来

この地には、奈良時代に「越の大徳」と呼ばれた泰澄により創建されたと伝えられる「竜王山田谷寺」が存在し、坊舎が48坊もあるほどに栄えていた。しかし、天正2年（1574年）に織田信長の越前侵攻により全山が焼失した。

万治2年（1658年）、この跡地に第4代福井藩主松平光通公が、松平家歴代の廟所として「大安禅寺」を創建した。奥まった山腹には、千畳敷と呼ばれる歴代藩主の墓所のほかに幕末の歌人「橘曙覧」の墓碑や、種痘の神様「笠原白翁」の墓がある。わがまちの名は、この松平家菩提寺の「大安禅寺」に由来する。

### 2 公民館の活動

#### (1) 大安寺っ子くらぶ

従来、子どもの育成に関する事業は各団体が個々に進めていた。そのため、行事の日程が重なり、子どもの取り合いになってしまうことが少なくなかった。

そこで、会合や行事等の機会を捉え、公民館から学校・PTA・育成会等に「連携」の呼びかけを行った。その結果、相互に足りない部分を補いながら活動することを目的として、平成16年4月に、子ども教室実施団体として「大安寺っ子くらぶ」が設立された。子どもに関する各種事業がスムーズに行われるだけでなく、そのことにより子どもの伸び伸びとした成長に大きな力を発揮してきている。10年余りが経過した現在は役員世代交代が大きな課題となっている。

#### (2) 合宿通学

平成17年度から小学4年生～6年生を対象とした「合宿通学」を実施している。10月中旬に3泊4日の日程で、子どもたちは親元を離れて共同生活を行う。身の回りの整理整頓・食事の準備や後片付けなどの生活習慣を身につけ、班毎に行動することで自らのリーダーシップを養い、団体生活での協調性も身につけてきている。

保護者のみならず、地区のボランティアと子どもたちが顔なじみになり、見守り等の充実に繋がっている。

しかし、公民館で地区民への声かけや保護者への通知を行ってきているが、毎回のボランティアの確保に苦慮している。



【合宿通学中の登校風景】

### (3) イルミネーションでの交流の場づくり

公民館を地域の交流の場として広く周知してもらう働きかけとして、クリスマス用のイルミネーションの装飾を計画し、「大安寺っ子くらぶ」の役員に呼びかけ、平成 21 年度より実施している。11 月中旬に作業を行い、クリスマスまで点灯をしている。

始めた頃は、装飾作業に参加した人数は親子連れが 20～30 名程度であったが、平成 26 年度には、親子連れだけでなく地区の方々も加わり、110 名の参加者で賑わった。全員で声を合わせてのカウントダウンは夜空に響き、イルミネーションが点灯し闇夜に輝いた。シチューで身体が温まる頃には会話も弾み楽しいひとときとなった。

子どもの事業にとどまらず、このイルミネーション点灯による交流の場づくりが、公民館事業や地区事業への参加に、ひと役買っていると言える。今後も交流の場として継続しながら、地域の行事として位置付けていきたい。



【イルミネーションでの交流会】

## 3 地区の事業

### (1) エコキャンドルと竹灯籠 IN 大安禅寺

住みよい町づくり委員会が中心となって、大安禅寺境内に隣接している独鈷水（とっこすい）公園を清掃活動・桜の苗木の植樹などで整備し、広く地域に知ってもらおう活動を進めてきた。平成 23 年度からは、地区の宝でもある大安禅寺に、より親しみをもってもらうため花菖蒲祭り期間中に、エコキャンドル祭りを開催してきた。

廃油を使ったキャンドル作り、竹の切り出し、児童・生徒、地区のお年寄りによるイラストの灯籠作りなど、準備から多くの人に関わり、祭りを盛り上げている。



【エコキャンドルと竹灯籠】

花菖蒲に灯籠の明かりが映え幻想的な雰囲気の中、演奏会を開き、たくさんの方が楽しめる地区のイベントになっている。しかし、地区内限定のイベントとなっており、地区外への発信は、受け入れの規模を考えると難しいため、今後の方向性については課題となっている。

今年は、火を取り扱うことへの危険性を考慮して LEDキャンドルに変更して、8月22日（土）に、大安禅寺の地蔵盆に併せて竹灯籠祭りを開催した。

地蔵盆とは、地蔵菩薩の縁日。地蔵菩薩は昔より子どもの守り仏として信仰されており、地蔵盆においては特に子どもが地蔵の前に詣り、そのご加護を祈る慣わしになっている。大安寺地区が古来より越前和紙の紙漉きが産業だったことを受け、和紙のお地蔵さんに絵付けを施し、自分だけの可愛い「わらべ地蔵さんづくり」をし、所願祈禱も行っている。

## 4 おわりに

「先人たちが残してきたものを風化させるのではなく継承し続けることが大事であり、地区への理解や人との繋がりをもてる場をつくっていきたい」という思いから各種事業を計画してきた。地区の人たちへの定着ができてきているという実感はあるが、課題も多々ある。今後、これらの事業をさらに発展させることで、より多くの住民の方の理解と参加を図っていきたい。

「大安禅寺」という文化遺産を活動の中心に据え、「地区民のふれあいの場づくり」を意図した大安寺公民館の事業は、着実に成果を上げてきているように思います。特に、公民館が中心なり、各団体が一体となって進められている子どもに関する事業は、子どもへの思いと「人と人との強いつながり」が感じられ、素晴らしい取組だと感じました。